口絵 臨石鼓文軸

呉昌碩　清時代・一九二〇年

教科書 口絵　東京国立博物館蔵

釈文

霝〈霊〉雨。流迢滂々、盈湛〈海〉済。
君子即渉、渉馬。汧殹洎々、
淒。舫舟西逮、自庠。徒
驟、隹舟㠯〈以〉衍。
會津八一先生正
庚申孟冬月臨石鼓文字
安吉呉昌碩時年七十又七

書き下し文

霊雨。流れは迢に滂々、海に盈ちて済。君子
渉に即き、馬を渉す。汧や洎々として、淒。
舟を舫べて西に逮び、庠自りす。徒驟、舟を
隹ぎて以て衍く。
會津八一先生正せ。
庚申孟冬月、石鼓文字を臨す。
安吉の呉昌碩、時に年七十又七。

大意

吉祥の雨が降り満ちる。流れはまっすぐに広がり、海に満ちて豊かである。君子は渡し場につき、馬を渡す。汧水の水は張り、盛んである。舟を並べて西に向かい、庠を出発する。従者は、舟を綱で引いて行く。
會津八一先生正されよ。
庚申（一九二〇）孟冬月（旧暦十月）、石鼓文字を臨書した。
安吉の呉昌碩、時に七十と七歳である。

口絵

墨梅自寿図軸

呉昌碩　清時代・一九二五年

教科書 口絵　東京国立博物館蔵

釈文

樗雲拏壑筆寥々、一樹寒香万
劫跳。爾意飛滕吾躄々、得朋同
寿且今朝。蜨誰夢続寂還補、琴不
絃張撫自傷。悟到前因無老死、画
成観我一華光。
生日写此自寿
乙丑八月朔呉昌碩時年八十二

書き下し文

雲を樗え壑を拏らえて筆寥々、一樹の寒香万劫に跳ぶ。爾飛滕を意い吾躄々するも、朋を得て同に寿ぐ且の今朝。蜨誰が夢続ぎて疏りて還補せん、琴絃張らずして撫して自ら傷む。悟り到る前に老死する無しに因りて、画成りて我が一華光を観ると。
生日に此れを写し自から寿ぐ。
乙丑八月朔、呉昌碩、時に年八十二。

大意

雲をささえ谷をとらえるかのように梅樹をわずかな筆で画くと、一樹の梅の香りが永久にとびはねるかのよう。梅樹よお前は高くあがろうとし私は行きなやんでいるが、お前という友を得て共にわが生日の今朝を祝おう。『荘子』の胡蝶は誰の夢を継いでやってきて帰っていくのか、陶淵明のように弦を張らない琴を撫して自ら悲しむ。悟ったのはこれまで老いて死ななかったからこそ、この画ができて我が一栄誉を示し得たということだ。
乙丑(一九二五)八月朔(旧暦八月一日)、呉昌碩、時に八十二歳。